

子育てにやさしい鉄道とは

「将来を見据えた民鉄業界の取り組み」

REPORT.2

子育て世代に人気の
沿線自治体

流山市・井崎義治市長に聞く

つくばエクスプレス（TX）沿線の千葉県流山市は2004年、自治体として初めて「マーケティング課」を設立し、移住者の誘致を開始した。2010年以降は、共働きの子育て世代へのPRを強化するため、「母になるなら、流山市。」のキャッチフレーズを掲げ、さまざまな施策を実施。取り組みが実を結び、近年、ターゲット層の人口増が続いている。マーケティング課の立役者である井崎義治市長に、流山市が行っている子育て世帯に向けた施策と、これからの街づくりの展望を聞いた。

取材・文●松澤美穂／撮影●加藤有紀

6年連続で人口増加率1位

——6年連続で人口増加率1位（全国市中）を記録しましたが、流山市の人口は現在どのようなになっているのでしょうか。

マーケティング課を設けた20年前、流山市は少子高齢化に直面していました。そこから、共働きの子育て世代に選んでいただける街づくりを進めてきた結果、全国792市中、6年連続で人口増加率1位を記録。現在、流

施策に取り組み、PRしてこられたのでしょうか。

仕事をしながら子どもが育てやすい環境づくり、インフラ整備に取り組み、PRしてきました。具体的には、待機児童ゼロの環境を整えるための認可保育園の充実、そして「駅前送迎保育ステーション」などが挙げられます。

認可保育園については、2010年度17園から2024年度104園にまで増加させ、待機児童ゼロを実現させています。2024年度からは、入園を希望する障害児等の配慮が必要な子どもが円滑に入所できるよう、「要配慮児童保育コンシェルジュ」の新設や、各園に受け入れ枠を設け、市の方で入園先を調整する取り組みも始めました。配慮が必要な子どもの保育園探しは、保護者の負担がとても大きいという市民の声を受けての対応です。受け入れ枠が空いている園を紹介し、受け入れていただく園には手当を出す必要があります。施設改修費なども出すようにしました。2025年度からは、認可幼稚園もこの取り組みの対象にする予定です。配慮が必要な子どもを含め、希望するすべての子どもが保育園・幼稚園にほぼ確実に入れる環境を整えていきたいと思っています。

もう一つ、「駅前送迎保育ステーション」は、2005年に開業したTXの、流山おおたかの森駅と南流山駅の2つの駅に隣接して設けた施設で、送迎保育ステーションと市内の指



流山市長

井崎義治

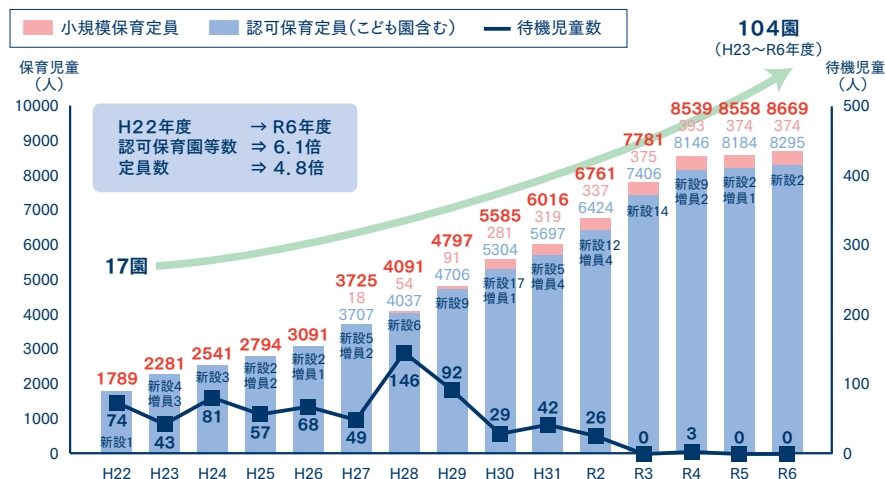
Yoshiharu IZAKI

定保育園をバスで結んで、登園・降園を行うシステムです。保護者は送迎保育ステーションに子どもを預けて出勤。子どもはバスで所属する園に登園し、時間になったら再びバスで降園。送迎保育ステーションで保護者の迎えを待つのです。送迎保育ステーションはTXの駅近くにあるため、通勤の流れの中で子どもの送り迎えができ、朝夕の時間的負担軽減につながると好評です。実際、市のイベントなどでお会した子育て世代の方から、「送迎保育ステーションがあったから流山に（住むことを）決めました」と言っていたこともあります。

——子育て環境の充実だけでなく良質な住環境の充実にも力を入れているそうですね、どのような取り組みをされているのでしょうか。

景観条例を設けて、指定区域では建物の色や看板の大きさなどにも細かいルールを定め、景観に配慮しています。また、緑豊かな住環境の実現のため「グリーンチェーン認定制度」を設け、敷地面積に応じた緑化基準を設定

■流山市の認可保育園等の新設・増設



■駅前送迎保育ステーション

市内の全ての保育所(園)が対象!!

流山おおたかの森駅 H19年 設置
南流山駅 H20年 設置
利用登録者数 120人(R6年3月現在)

各送迎保育ステーションと市内の指定保育所(園)を安心・安全のバスで結び、登園・降園するシステム

→保護者の時間的負担の軽減



グラフ・図ともに流山市の資料をもとに作成

——流山という街を、これからのどのようにしていきたいとお考えでしょうか。

市民を対象に実

います。子育て支援施設については、現状十分にご協力をいただいているので、今後は、商業的な土地利用と駐車場の確保という面で、有効な土地利用について慎重に協議させていただきたいと考えています。

これから市民の方には住み続けたいと思っていただけるように、市外の方からは住んでみたい街と認知していただけるように、良質な子育て環境と住環境の整備・維持・向上に引き続き取り組んでいきます。

人口もこれまでのような急増ではなく、緩やかな増加ペースに変わっていくはず。行政の対応も、数への対応から質の向上を目指すものになっていくと考えます。

ただ、良質な住環境を考える上では、適正人口規模と適正人口密度というものがありますから、この24万人という数は上限だと考えます。すでに開発余地も限られてきているので、今後はマンションや住宅が次々と建つということはなくなっていくでしょう。

国立社会保障・人口問題研究所の試算では、流山市は2050年まで人口が増え続け、24万人台になるとされています。住み続けたい街、住んでみたい街として認知していただいていることを考えると、この推計は、現実的な数だと思います。

施した「まちづくり達成度アンケート」では、「これからも流山市に住み続けたい」という回答が90・5%（令和6年度）に上りました。子育て環境、それを含めた良質な住環境の整備・維持・向上に取り組んできた結果でしょう。

しています。もちろん、子育て環境充実に向け、200戸以上の集合住宅には認可保育園を設置するといった基準を設けた「流山市子育て応援マンション認定制度」もあります。こうしたさまざまな条例や認定制度に対し、当初は反発される住宅ディベロッパーさんでしたが、今はどこも協力的です。子育て環境を含む、住環境を整えることが流山での住宅の購入や賃貸契約に結び付くという事を理解いただけたのだと思います。

——流山市の街づくりにおいて、公共交通事業者と協働されている事業はありますか。

TXの高架下に児童館や学童保育施設等を設置させていただいてます。子ども人口が増え続けている中、学童保育施設も教室1つ2つでは足りません。一つの施設で、鉄道車両で4両分くらいのスペースを使わせていた

だいていたりします。

また、駅利用者向けに高架下を駐輪場スペースとして提供してもいただいています。駐輪場は重要な社会インフラの一つですが、稼働率は常に100%を超えています。流山おおたかの森駅周辺などでは、商業的な土地利用も進んできているので、商業施設の一角に駐輪場を作っていた例もありましたが、需要は高まり続けています。

TXの高架下を有効活用